

atropurpureo-fuscescentes apice petioli vel basi laminae 1-vel 2-glandulis instructi. Drupa globasa circ. 8 mm longa 9 mm late nigra lucida.

Nom. Jap. Moniwa-zakura, nom nov.

Hab. in Moniwa, Fukushima Pref. (T. Kawasaki, Apr. 25, 1961-typus in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo).

□ Venkataraman, G. S.: **Vaucheriaceae**, pp. 112, figs. 72 (Indian Council of Agricultural Research, New Delhi, 1961.) 数年前に Randhawa, M. S. の主宰する前記 Council から淡水藻類のモノグラフ刊行の計画が発表され、既に Cyanophyta (Deskachary, T.V., 1959) と Zygnemataceae (Randhawa, M.S., 1959) が出ていて、その 3 冊目として本書が出版された。従来、Vaucheriaceae は Chlorophyta—Siphonales の中におかれ、*Dichotomosiphon*, *Pseudodichotomosiphon*, *Vaucheria*, *Vaucheriopsis* の 4 属が含まれていたが、分類上の位置についてはその後いろいろの提案がなされ、現在では次の 3 つの考え方がある。1) 前記 4 属を含めて Vaucheriaceae として Chlorophyta に入れる従来の考え方 (本書の著者はこの考え方を採っている)。2) *Dichotomosiphon* は Chlorophyta に残し、*Vaucheria* だけを Chrysophyta—Xanthophyceae に移す (*Pseudodichotomosiphon*, *Vaucheriopsis* の 2 属については言及せず)。3) *Vaucheria* を特別なものとして新らしく Vaucheriophyta を設け、その中に入れる。Venkataraman は本書の前半で、従来、分類の基準として考えられている糸状体、生殖器官の構造等の巨視的な諸形質について精しく述べるとともに、前記 1, 2 (3 はごく最近前川文夫教授 (1960) によって提唱されたもので、これについてはふれていない) の論議の根拠になっているところの游走子及び精子の鞭毛の形質、藻体に含まれている Chlorophyll, Carotinoid 等の色素の性質等に関する諸研究についても、その概要を述べている。後半では現在迄に世界各地から知られている *Dichotomosiphon* 1 種, *Pseudodichotomosiphon* 1 種, *Vaucheria* 54 種, 10 変種, 9 品種, *Vaucheriopsis* 2 種について記している。記載してある種について検討してみると、各種の扱いについて著者自身の意見はほとんど加えられていない様であるし、更に, synonym については全然ふれていない点はより深い研究を望むものにとっては物足りない感がないでもない。然し、Vaucheriaceae のモノグラフとして著名な Heering (1907, 1921), Brown (1929) のものはいずれも古く、しかも入手し難い今日、この本が発刊されたことは、単に分類学的研究にたずさわる人だけでなく、*Vaucheria* を材料として細胞学的、生理学的研究を進める人々にとっても誠に都合のよい本であると考えられる。\$ 4。

(山岸高旺)